

第5回終着駅サミット in 広島 20180304

詳細は 195 号にて



●撮影／善光：JRあき亀山駅

☆☆活動報告☆☆

- 2月15日 ROBA2 月例会・理事会
- 2月28日 福井市地域生活交通活性化会議
- 3月2日 田原町駅活性化協議会
- 3月8日 ROBA3 月例会・理事会

☆☆今後の予定☆☆

- 3月22日(木) すまいるバス検討会
- 3月24日(土) 第2回交通フェスタ
田原町駅フェスタ
- 4月12日(木) ROBA 4月例会

善光の一言 ⑦

歌謡評論家会員？の善光です。

みなさん、ちあきなおみさんの“喝采”と言う曲は覚えていますか？ この曲の歌詞が時々若者の間で話題になっているそうです。それは「動き始めた汽車～に～～、一人飛び乗お～った～～」のところ。「そんなことできるの？」「それは可能なのか？」などなど。50歳くらい以上の方は、ああ懐かしいな、となるでしょうが、現代の若者にとっては？？？となる様ですね。

以前、鉄道列車のドアは手動でした。暑い時期は開けっぱなしで走っていましたね。駅では、列車が完全に止まる前に飛び降りたり、曲の通り、動き始めた列車に飛び乗ったりしていましたね。私も飛び降り、ホームでこけそうになり、車掌に注意されました。「下手くそ！」。高校の帰り、動いている列車にカバンを放り込んだのは良かったが、加速に負けた自分が乗り損ね、カバンだけが先に帰ってしまったバカな友人もいました。当時の車内放送は「列車がよく止まってからお降りください・・・」

のんびりとした良い時代でしたね・・・。

汽車に飛び乗る？

第6回 LRT 都市サミット in 松山報告

2018年1月12日(金)と13日(土)に、道後温泉の子規記念博物館で第6回 LRT 都市サミット in 松山(2017年度)が開催されました。開会式では松山市長野志氏の主催者挨拶で幕を開け、地元の鉄軌道事業者である伊予鉄道社長清水氏の共催者挨拶、来賓として、国土交通省大臣官房技術審議官廣瀬氏の代理で担当部長の渡辺氏と愛媛県知事の中村氏が挨拶されました。

12日は、最初に国土交通省各局の担当者が支援制度と最新事例について紹介がありました。総合計画局の山川氏からは、地域公共交通網形成計画・地域公共交通再編実施計画の策定状況が報告され、平成29年11月末までに21件が国土交通大臣により認定されたそうです。都市局の渡邊氏からはコンパクトなまちづくりに向けた都市全体の整備の中で、都市軸の交通を担うLRTに対して路盤整備などのハード面に加え、公共交通の利用促進策やまちなか居住への誘導策などのソフト面も合わせた総合的な支援制度について紹介がありました。具体的な事例として豊橋駅前への延伸から始まり、富山ライトレールの整備、福井でも駅前電停の乗り入れやえちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗り入れへの支援について紹介がありました。鉄道局の安西氏からは鉄道全般についての支援制度として、安全対策、移動円滑化、ICカードの導入、税制優遇措置などの支援策の紹介がありました。なかでも鉄道事業再構築事業の認定第1号となった福井鉄道が今年度で事業期間を終え、計画当初に困難と思われた利用者増を達成し、地域住民の足となっている点について評価されていました。

過去最多の11都市の参加があった首長会議では、各都市の市長や副市長などから最近の取組についての紹介がありました[写真1]。各都市の持ち時間が5分という中で、都市や名物の紹介をはさみながら、LRT改良の事例を紹介するのはたいへんそうでした。松山市野志市長からは、道後温泉本館の改修に先立ち、新しい浴場「飛鳥の湯」が完成し、温泉街と松山城周辺の歩行者空間拡大、松山市駅前の花園町通が車線減少歩道拡幅と電停のバリアフリー化[写真2]、新型低床車5000系の導入[写真3]に加え、JR松山駅高架化事業の際に軌道の延伸が計画されるなど松山市の今後に向けての抱負が語られました。札幌市吉岡副市長からは環状化とサイドリザベーション化により利用者が前年比111.6%と増加したこともさることながら、都心のにぎわいが増したとの報告がありました。富山市森市長は発表時間が短いこともあり、かなりスピーディに新幹線高架下への乗り入れ、インバウンド向け歓迎チケット、花束購入者への無料チケット配布、信用乗車制度の導入、トランジットモール実験などの事例に加え、富山ライトレールとセントラムの南北相互乗り入れへの準備も進めていると紹介されました。福井市の田島都市戦略部理事からは、福井駅前広場への軌道乗り入れとバスターミナル整備、福井鉄道とえちぜん鉄道の相互乗り入れとその結節点である田原町駅周辺整備について紹介がありました。

以下発表者と概要です。豊橋市・有野副市長：駅前大通の軌道緑化、オープンデータを活用した公共交通運行情報の提供、ふるさと寄附金への返礼として路面電車運転体験を取り入れるなど、市民が親しみを持つ市電としての取組を紹介。岡山市・栗田都市整備局統括審議監：都心部の1km四方に公共交通と居住、商業、文化施設を集中させる都市計画について紹介。公共の交通ラクダの岡さんが切望する駅前延伸のイメージ図が紹介されたものの、まだ市民や関係者の意見を聞いている段階だそうです。広島市・岡村副市長：今後の計画として、広電本社前電停の改良による循環線新設、広島駅前に高架デッキへの乗り入れと都心直結線化。高知市・吉岡副市長：、土佐電の経営問題後の高知県・沿線市町村が出資して誕生したとさでん交通の取り組みについて、バスとの乗継割引新設やサイクルアンドライドの事例紹介。長崎市・片江まちづくり部長：ICカード、軌道のセンターポール化、外国語表示ディスプレイ入、低床車3000系3編成と5000系2編成の導入と低床車運行情報提供。熊本市・多野副市長：震災の3日後に路面電車が復旧、水戸岡氏デザインの低床車COCORO導入、電停周辺への市民病院移設計画。鹿児島市・松山副市長：観光レトロ電車の導入、電車車両基地改修、鹿児島港延伸計画。

愛媛大学の松村先生のとりのまとめとして、サステイナブルなまちづくりを実現するうえでLRTの優位性が高い、交通事業者・行政・地域住民・NPOなど関係者主体とのみつな連携、交通だけでなく観光・福祉・商業なども含めたトータルな都市計画が求められるとのことでした。サミット宣言のあと閉会のあいさつがあり、次回

の開催地は札幌と発表されました。関連イベントでは参加都市の紹介コーナーが設けられ、福井市では越前ガニとさくらまつりのポスターが大きく飾られていました [写真4]。

2日目の13日は土曜日ということもあり、地元市民も楽しめるプログラムで、松山の鉄道歴史と題して、伊予鉄道の中尾常務取締役運輸本部長が計画から合併、路線変更を繰り返してきた伊予鉄の歴史を紹介されました。本社ビル1FにSTARBUCKSを誘致し、坊っちゃんミュージアムを併設 [写真5]、松山市駅ビル屋上に観覧車を設けるなど、にぎわいを創出し、近年は利用者が増えてきたそうです。そして、これからの取組として、松山市都市整備部の石井都市・交通計画課長より、先日市長から紹介のあった事例について詳しくご説明いただきました。加えて、バスと鉄道の重複している路線を整理してフィーダー化し、駅前のターミナルを整備、主要バス停にバス到着案内 [写真6] を整備するなどの取り組みも紹介されました。続いて、タレントの六角精児氏が酒を飲みながら列車に乗り、駅周辺の居酒屋をめぐる「呑み鉄」の話を紹介されました。酔っぱらいながらちょっとしたことを歌詞に取り入れた歌もギター片手に披露され、聞くところによるとバンドを組んでレコードも出しているそうです。閉会式では松山市の川口都市整備部長の挨拶のあと、昨日に引き続き、次回開催地の札幌市吉岡副市長が2019年の札幌開催にあたって再びお会いしましょうと締めくくられていました。[松原 光也]



写真1：首長会議



写真2：歩道拡幅と電停のバリアフリー化が行われた花園町通、奥が松山市駅



写真3：新型低床車 5000系と松山城



写真4：福井市の紹介コーナー



写真6：伊予鉄道バス
到着案内付バス停
先発、次発とその次のバスについて、行き先と到着までの時間が表示される



写真5：坊っちゃんミュージアム、喫茶店併設

第13回 全国路面電車サミット 2018 松山 参加レポート

内田佳次

2018年1月13日（土）～14日（日）の二日間全国路面電車サミットが松山市で開催されました。なお、LRT都市サミットが1月12日～13日同時開催されています。というかLRT都市サミットがあり、同時に全国路面電車サミットが開催されたと言った方が良いでしょう。全国路面電車サミットの開催も13回を数え、開催可能な地域も限られてきています。全国大会となるとそのノウハウや人的、金銭的問題もあり開催できる地域が限られてしまうという現実問題があるからです。そんなことから、できるだけコンパクトにコストのかからない手法で開催しています。今回開催の実行委員会もRACDAの岡会長が中心となり全国路面電車ネットワークがバックアップして地元松山市のスタッフと連携して準備を進めたようです。

全国路面電車サミットを継続し、LRTから地域公共交通の活性化、まちづくりへと国を動かそうという岡さんをはじめ、RACDAの皆さんや全国の愛好支援団体の熱い思いがあってここに到達できたのだらうと思います。改めてその行動に敬意を表します。

私自身、松山市は以前から関心があり2年前にも視察に訪れています。伊予鉄道が運行する市内中心部を巡る路面電車（市内線）は市民の日常の足となるほか、松山城や道後温泉といった観光の利用も多く、おおよそ10分間隔で運行するなど利便性がかなり高い。昨年9月21日には新型のLRV（5000形）が2編成導入され、低床型の車両が増えています。シンボルカラーをみかん色（オレンジ）としているため、見た目は福武線のフクラムとそっくりな顔立ちです。残念ながら、私の滞在日の空き時間では5000形の乗車はできませんでした。

1月13日はいきなり懇親会からのスタートです。会場は道後温泉界限にある施設。国土交通省、松山市、伊予鉄道の代表の挨拶に続いて、恒例の愛好支援団体の自己紹介・近況報告がありました。サミットの資料によると全国27の団体の登録があります。いつの間にか多くの団体になったなあ、と思います。うち挨拶は20団体ほどですが、1団体5分として1時間20分も要します。ROBAからは清水さん、松原さん、内田が壇上で挨拶いたしました。懐かしい顔が多く、約2時間の懇親を深めました。

この日は道後温泉に来たからには温泉につからなくてはいけないと思い、道後温泉のシンボルである道後温泉本館の近くに宿をとり、ゆっくり温泉につかり翌日に備えました。やはり観光地なのでクルマのナンバーも他府県が多く色々な移動手段で楽しんでいる様子が伺えました。また温泉とは言え、年齢層が若く活気も感じられ羨ましくも感じました。

1月14日はサミット本会議 9:30～13:00 公共の交通ラクダ理事の宗田さんの司会進行で開催されました。昨日は懇親会での団体挨拶でしたが、本会議で改めて参加団体代表による報告がありました。各団体5分という短い時間での報告でしたが、清水さんが福井の現状の特別報告、ROBAの紹介をしていただきました。

会議の中で特徴的な事項について報告いたします。

- ・名古屋、神戸ではLRT計画が中止となった。軌道をひくことがNG。
自動車走行車線の減少はできないという流れである。
- ・世界的には最近2年で176都市でLRTが導入されている。
- ・BRTは車線を分離することで機能が発揮できる。
(一般道走行でのBRTという定義は疑問)
- ・マンチェスターのLRTは高床車で運行している。低床車=LRTではない。
- ・中国では架線レストラムが導入されている。QRコードを活用した運賃収受が行われていて、現在はLRT先進地になりつつある。
- ・松山市には市民団体がなかったが、全国路面電車サミット松山の開催を機に市民団体を設立することとする。
- ・次回のLRT都市サミットは札幌での開催のようです。とすると次回の全国路面電車サミットは札幌開催かも？



1DAY チケット



サミット本会議で報告する清水さん



LRT 都市サミットポスター



新型 LRV 遠景



懇親会の様子

全国路面電車サミット松山報告

去る1月13日・14日に松山市で開催された第13回全国路面電車サミット松山に参加して参りましたので報告致します。サミットは13日夕方の懇親会から始まりました。相変わらず参加者が多いのですが、ここは皆さん人脈を広げる場でもあり、有意義な時間を過ごされたのではないかと思います。



14日のサミット本会議では、各地の路面電車愛好支援団体の報告のあと、松山市や伊予鉄道、公共交通を活かしたまちづくりの活動

に取り組む大学生の報告を聞きました。松山市は現在、JR松山駅建て替えに伴う軌道線の延伸、空港への延伸、松山観光港への延伸などが行政の課題として存在するようです。松山市が鉄軌道の都市政策への活用を真剣に考え始めたということなのでしょう。今回のLRT都市サミットの誘致、全国路面電車サミットの受け入れには、鉄軌道の活用には松山市による投資が必要になり、そのためには伊予鉄道、市民を含めた広範囲の合意形成も必要になり、そのような過程でサミットが誘致・受け入れされたのではないかと思います。また、大学生の取り組みは面白く、参加者の関心を集めていたようでした。

次のセッションでは、全国路面電車ネットワーク・RACDAの岡さん、AREEVの竹内さん、地域公共交通総合研究所の服部さん、人と環境にやさしい交通協議会の小田部さんと共に私も登壇しました。このセッションで、私は福井鉄道・えちぜん鉄道相互乗り入れ区間のバリアフリーについて事例報告してきたのですが、岡さんの報告によれば、全国の軌道線において全線バリアフリー化が完成している事業者は東京都電、東急世田谷線、福井鉄道などごくわずかで、全国的に電停のバリアフリー化が進んでおらず、低床車両もわずかししか導入されていないケースがほとんど。福井鉄道の全電停・全駅バリアフリー機能完成は全国的に見てかなり貴重な事例になっていることを改めて認識しました。大都市圏の鉄道を除いて、これだけの規模でバリアフリーが実現している事例は珍しいのです。福井はこの状況をつくりあげたことにもっと自信と誇りを持って良いのだと思いました。そして、福井はこれをもっともっと高度に活かすことを考えた方が良いのだと認識しました。他の登壇者からは、日本では道路車線を軌道に再配分することに対して抵抗が大きく、LRT導入が実現せず、LRT構想の多くがBRT導入に変わってしまう状況があること、また、そもそも鉄軌道整備に用意される国の財源が少なすぎることなどが報告され、それらについて如何に状況を変えていくかの議論が行われました。次回は今回も併催された行政・事業者のLRT都市サミットが開催される札幌での開催となる見込みです。

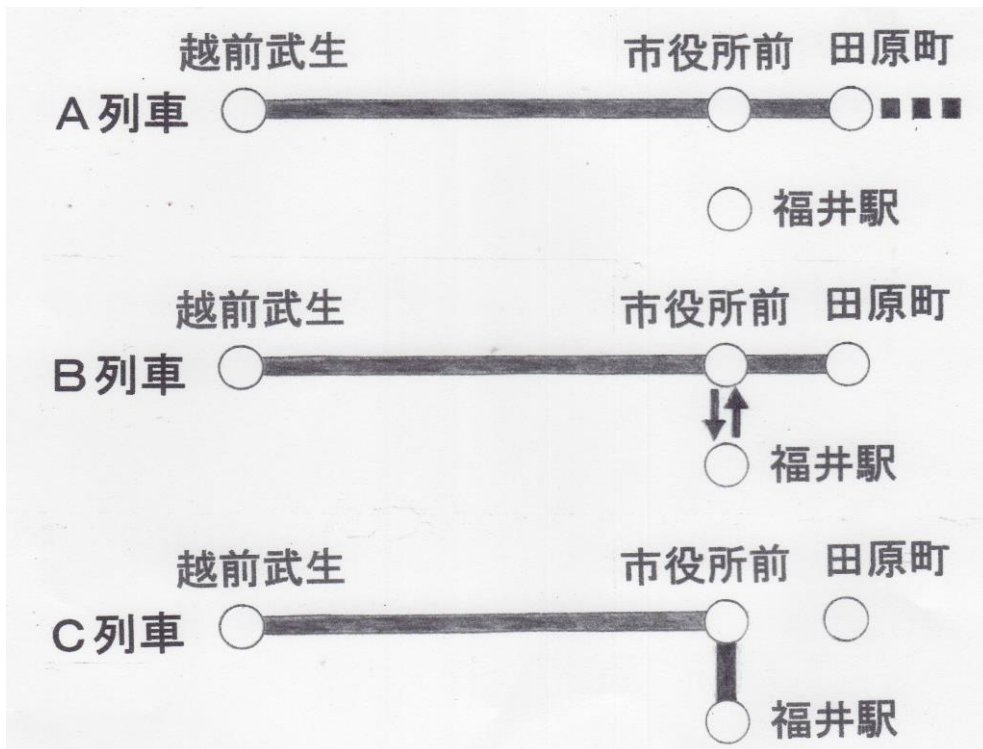
私は13日の午前中、14日の午後は伊予鉄道の軌道線と鉄道線の写真・動画撮影に当てました。YouTubeにupしましたので、よろしかったらご覧ください。URL：<https://youtu.be/H2xrgEdycAI>
松山の街の構造と伊予鉄道の鉄軌道、とにかく面白かったです。面白いものをたくさん見てきました。何より、市街地の奥に重要な観光地の道後温泉があり、路面電車がそこをめざして高頻度運行していること。それ以外にもハード、ソフト両方の面白い仕掛けがたくさんありました。LRTの一つのあり方を見たように思いました。街の構造や様子から見て、軌道線も鉄道線も松山市にとっては骨格として機能し、都市の施設として都市計画や都市政策の前提になっているのではないかと思います。今回のサミット参加と松山見学、福井の鉄軌道について深く考える機会となりました。（文・清水）

福井鉄道の列車種別ルートについて

岸本雅行

福井鉄道福武線を通勤（越前市から福井市）に利用し始めてから数年になります。以前は呑み会以外の日は毎日クルマ通勤でしたが、最近車両も新しくなりダイヤも便利になったので電車での通勤に切り替えました。毎日通勤していて気になることですが、福井方面行（下り）列車で行き先が分からず迷っている乗客をよく見かけます。平日の越前武生発福井方面行の始発から8時台までのダイヤを調べてみると、福井駅へ寄らずに田原町方面（えちぜん鉄道乗り入れも含む）へ行く列車が7本、福井駅を経由して田原町へ行く列車が2本、福井駅が終着となる列車が3本と3種類の列車が走っています。乗客の立場に立ったきめ細かなダイヤは有難いのですが、毎日通勤していても間違いそうになったことが何度かありました。ましてや、初めて利用するような乗客はパニックになってしまいそうな気がします。閑散時は田原町・鷲塚針原行の急行（福井駅は経由しない）が毎時2本、福井駅経由田原町行の普通が毎時2本と比較的分かりやすいダイヤとなっていますが、福井駅を経由しスイッチバックして市役所前へ戻るといのは、慣れない乗客には理解しにくいと思います。

そこで、下のように簡単な図で3種類の列車種別ルート（A列車・B列車・C列車などに分けると理解しやすいと思います。）を示し、駅舎・列車内などに掲示すれば初めての乗客にも分かりやすいのではないのでしょうか。列車内前後にある案内ディスプレイに、乗車した列車のルートを随時表示する方法もあります。列車種別ルートを図示することにより、さらに分かりやすく乗りやすい福武線になるとと思います。いつも利用している乗客にとっては十分理解できていることでも、利用していない人にとっては全く分かっていないことが多いようです。以前、ある人が「福武線は行き先などが複雑で分かりにくいので、利用しづらい。福井へ出かける時にはクルマを使ってしまう。」と言っているのを聞いたことがあります。今秋には福井国体が開催され、他県からの多くの来客が福武線を利用することも予想されます。1人でも多くの人に便利に安心して福武線を利用してもらえるように、列車種別ルートの表示に関し、関係者の皆様のご一考をお願いしたいものです。



怪速! by.うろし哲
路面ライター



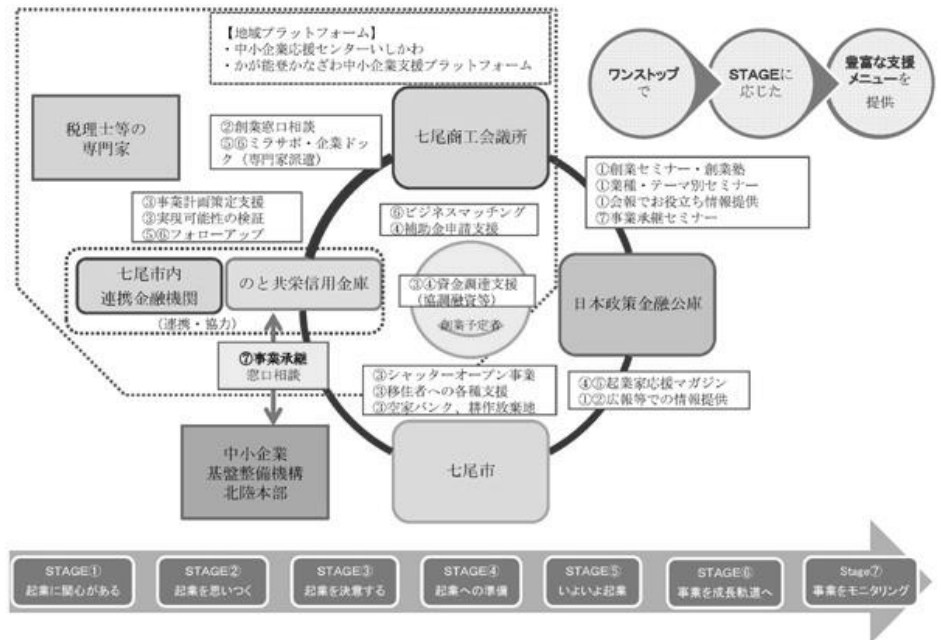
お後がよろしいよ〜で

作/漆崙 耕次

石川県七尾市の創業支援

石川県七尾市に本格的に住み始めて数か月が経ちました。七尾市には、ここ数年でできたのかな?と思うような面白そうなお店がいくつもあります。地元食材を使ったイタリア料理店、体に優しい素材を使ったお総菜屋さん、かわいいケーキ屋さん、オシャレな焼き鳥屋さん、オーダースーツ店などなど。気になって調べてみると、どこも「ななお創業応援カルテット」という仕組みを活用して起業したお店でした。七尾商工会議所、のと共栄信用金庫、日本政策金融公庫、七尾市の4者が協定書を締結して七尾市内での創業支援を行っています。このような官民一体の創業支援に関する協定書の締結は北陸初です。創業相談会や創業塾、資金調達支援、事業計画書策定支援、経営支援など、支援メニューは多岐にわたっています。

『ななお創業応援カルテット』



(出典: ななお創業応援カルテット <http://www.nanao-cci.or.jp/c38.html>)

市内に次々と新しいお店が出来ていくので、「また新しいお店ができる!」と行くのが楽しみになります。魅力あるお店が増えていくことで点ではなく面として魅力的な場所になっていきそうです。

編集後記 ... 編集委員より一言

内田 (発行責任者)

「この時期私の業務が一番忙しい時期になりまして、時間がなくて困っています。」

林 (変集長)

「森田コミバスの住民説明会を4月に開きます。やっとここまでできました。ソダネー! (今年の流行語大賞に決まりだね/ソダネー)」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>